

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組04	セーフ&環境スマートモデル街区の整備														
②対応する目標・課題	低炭素・省エネルギー															
③対応する評価指標・目標値	■評価指標: 便利な公共交通の徒歩圏に住む居住人口の割合	■目標値: 28% (H17年度) ⇒ 42% (H37年度)														
	■評価指標: 家庭部門からのCO2排出量	■目標値: 801千t-CO2 (H17年度) ⇒ 244千t-CO2 (H62年度)														
④取組内容	<p>公共交通沿線の低未利用地や開発余地が残されている地区において、環境配慮型住宅や太陽光発電設備などを整備するとともに、住民同士の相互交流の場となるオープンスペース、自動車を低速で通行させるなど子どもが遊べ、高齢者が安心して通行できる生活道路、商業・医療・福祉施設などの生活に必要な施設が適切に配置された街区を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代省エネ基準(平成11年基準)を上回る省エネ断熱住宅の建設 ・ゼロエミッション電力(ソーラー発電設備、中小水力発電等)の100%活用 ・スーパースmartモデルハウス(超高断熱・HEMS・超省エネ技術・最新家電等)の整備 ・住宅の燃費性能表示の義務化 ・エコカーのシェアリングシステムの導入 ・住民同士の相互交流の場となるオープンスペースの整備 ・車を低速で通行させるなど子どもが遊べ、高齢者が安心して通行できる道路づくり ・エコ活動拠点機能(資源回収等)を備えた商業施設の立地誘導など 															
⑤エリア	公共交通沿線の低未利用地や開発余地が残されている地区															
⑥主体	民間事業者、電力事業者、市民、富山市															
⑦活用した国等の制度	なし															
⑧地域の関与	【実績】住宅メーカー等の取組に対する富山市の支援等															
⑨スケジュール	<table border="1"> <tr> <td>23年度</td> <td>モデル街区の調査</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>モデル街区の調査</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>整備方針の決定、モデル街区の整備に向けた事業計画の策定</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>整備方針の決定、モデル街区の整備に向けた事業計画の策定</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>モデル街区の形成、他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の事業計画や募集要項を策定し、事業者の募集・選定を行う</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>モデル街区の形成 他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の設計を実施、着工。</td> </tr> <tr> <td>29年度以降</td> <td>他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の形成。他地域への展開に向けた調査検討。</td> </tr> </table>		23年度	モデル街区の調査	24年度	モデル街区の調査	25年度	整備方針の決定、モデル街区の整備に向けた事業計画の策定	26年度	整備方針の決定、モデル街区の整備に向けた事業計画の策定	27年度	モデル街区の形成、他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の事業計画や募集要項を策定し、事業者の募集・選定を行う	28年度	モデル街区の形成 他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の設計を実施、着工。	29年度以降	他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の形成。他地域への展開に向けた調査検討。
23年度	モデル街区の調査															
24年度	モデル街区の調査															
25年度	整備方針の決定、モデル街区の整備に向けた事業計画の策定															
26年度	整備方針の決定、モデル街区の整備に向けた事業計画の策定															
27年度	モデル街区の形成、他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の事業計画や募集要項を策定し、事業者の募集・選定を行う															
28年度	モデル街区の形成 他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の設計を実施、着工。															
29年度以降	他地域への展開に向けた調査検討 モデル街区の形成。他地域への展開に向けた調査検討。															
⑩他の取組との連携	<p>取組名: LRTネットワークの形成</p> <p>連携内容: セーフ&環境スマートモデル街区の整備は、日常の移動も含めたライフスタイル全体の低炭素化を誘導する趣旨から、LRTネットワークの形成などの公共交通活性化関連施策と連携を取りながら事業を進める。</p>															
⑪自立・自律の方針・目標	<p>●エコな暮らしや安全・安心で快適な暮らしなど良好な住宅ストック供給の促進</p> <p>一般に、環境性能に優れ、良好な住環境を備えた面的な住宅街区の整備には、コストや販売リスクなどの観点から、民間事業者だけの取組に限界があると考えられる。</p> <p>一方、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの実現を目指して、公共交通沿線での住宅の供給・取得に対する支援を行っており、この取組の一環として、行政が一定の関与をしながら、エコな暮らしや安全・安心で快適な暮らしなどを実現する良好な住宅街区の形成を誘導する。これを一つのモデルとして、市民・事業者に発信することにより、公共交通沿線での暮らしのイメージアップを図るとともに、環境や生活の質の向上に配慮した住宅供給が促進され、標準化していくことを目指す。</p>															